

令和元年度 重点目標【達成報告】

【達成度】	
A	… 目標達成
B	… 概ね（80%程度）達成できた
C	… 達成できなかった
D	… 未着手

担当部署		重点目標	取組方針	達成報告（令和2年3月末時点）	
部名	課名			達成度	進捗状況と今後の取組
総務部	総務課	防災・減災力の強化		B	
		地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○若い世代の防災士の養成に力を入れ、各自主防災組織の若返りを図るとともに、女性防災士を養成し地域防災に女性の視点を取り入れ、地域防災力の向上を図る。このほか、各小中学校にも防災士を1名養成し、学校の総合的な防災力の向上を図る。（各小中学校教諭1名が資格取得予定） ○防災士研修を実施し、スキルアップを図るとともに、防災士間の情報連携を促進し、町内自主防災組織全体の意識の高揚を図る。 ○災害時にスムーズに物資を配布できるよう、施設管理者との連携を密にし、備蓄品の管理及び支給体制の整備を行う。 ○日常生活における防災への心構えや災害発生時の避難行動、避難経路等の周知・啓発を行い、地域の自主防災力の向上を図る。 また、ホームページやフェイスブックを利用し、国や県の最新の施策を町民に発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○自主防災組織の若返りを図るため、各自主防災組織と協力し、20代～40代の14名の方に防災士養成講座を受講していただいた。また、避難所運営に女性の視点を取り入れるため、女性に積極的に受講勧奨を行ったが、受講者は横ばいであった。各小中学校については、5名の教諭に受講していただいた。 【受講実績】（前年度）（今年度） 受講者数 18名 17名 平均年齢 60歳 53歳 女性割合 28% 24% ○愛媛大学との連携により、公開講座及び防災士フォローアップ研修を実施し、町内自主防災組織の意識の高揚を図った。 ○松前町総合防災訓練において、指定避難所の施設管理者と備蓄物資受入れ等の訓練を行い、連携を深めた。また、今年度から各指定避難所への分散備蓄を開始した。 ○各地区で出前防災講座を月2回のペースで開催し、防災に関する周知啓発を行ったほか、松前町総合防災訓練においては、自主防災組織主体の避難所訓練を行い自主防災力の向上を図った。 また、最新施策の情報発信については、ホームページやフェイスブックを利用して、適宜行った。
		災害対策の組織体制の見直し	○災害対策における各種マニュアルを随時見直し、組織的な動きのとれる人員配置、活動場所のレイアウト、行動計画を作成し、防災・減災対策の強化を図る。	B	○平成29年9月の台風18号による災害発生時に新たに明らかになった組織の活動体制の課題に対応するため、災害対策本部設置・運営マニュアル（風水害編）を見直した。また、新たに災害時職員初動マニュアル（ポケット版）を作成し、職員へ周知した。引き続き、防災・減災対策の強化を図る。
		義農大賞の創設	○義農大賞を創設し、令和3年度の開催を目指す。	C	○プロジェクトチームにおいて、イベントの企画内容を検討している。令和3年度の開催を目指す。
		ふるさと納税の強化・充実	○返礼品協賛事業者を増やし、松前町の魅力ある返礼品を充実させ、当町へのふるさと納税の増加を目指す。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○協賛事業者・返礼品ともに充実させた。これに伴い、今年度は過去最高の寄附件数・金額となった。前年比は、以下のとおり。 【協賛事業者】 9事業者 → 14事業者 【返礼品数】 16品 → 55品 【寄附額】 53件 1,203,358円 → 153件 4,246,000円 （※申込ベースでの集計）

担当部署		重点目標	取組方針	達成報告（令和2年3月末時点）	
部名	課名			達成度	進捗状況と今後の取組
	福祉課	子育て支援・環境の充実	<p>○恒常的に不足している保育士の確保について検討するとともに、年間通じて募集することで、待機児童の解消を図り、保護者の仕事と子育ての両立を支えられる環境を整備する。</p> <p>○共働き世帯の増加に伴い、増加・多様化する放課後の子育て支援ニーズに対応するため、松前小学校の放課後児童クラブの施設整備について検討を行う。</p>	B	<p>○待機児童の解消はできなかった。 【待機児童数比較（4/1時点）】 H31：36人 R2：6人（△30人） 今年度は、保育士を確保するため、年間を通じた募集や保育士の処遇改善の検討を行ったほか、県保育協議会主催の保育関係者セミナー等に参加し、人材確保に取り組んだ。 今後は、第2期松前町子ども子育て支援事業計画に基づき、引き続き、施設の清掃等、保育士をサポートする保育所補助員を雇用し、保育士の負担軽減を図るとともに、保育士の待遇改善やICT化の推進による働き方改革を進め、保育士の確保に努める。</p> <p>○旧宗意原保育所跡地を候補地として、関係機関と協議し、建設場所を決定した。 令和2年度に新築工事の設計委託を予定している。</p>
保健福祉部	町民課	支え合いによる交通安全の推進	<p>○町民自らが交通事故防止のための啓発活動やグッズ製作を行う機会を提供し、主体的に交通安全について考える環境を整えることで、みんなで支え合い、安心して暮らすことができるまちづくりを目指す。</p> <p>【実施予定事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれな反射材プロジェクト ・町民オリジナル注意喚起看板製作 ・高齢運転者運転免許返納支援事業 ・住民組織協働によるひまわりバス時刻表（携帯版）の改良 	A	<p>○みんなで支え合い、安心して暮らすことができるまちづくりを目指して、各事業を実施した。 （詳細は、以下のとおり。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おしゃれな反射材プロジェクト 各校区サロンや交通茶屋などにおいて、高齢者だけでなく、伊予高校生やエミフルに会場していた親子連れ等、様々な年齢層の方々（延べ500人）に反射材を制作していただくことができ、交通事故防止の啓発をすることができた。 ・町民オリジナル注意喚起看板 イベントや交通安全関連の会議において住民の皆さんに広く看板の標語を募集したところ、81件の応募があり、その中から選定した標語で、カーブミラー用と子どもの飛び出し危険箇所用2種類の看板を制作し、設置した。 ・高齢運転者運転免許返納支援事業 高齢者が運転免許証を自主返納しやすい環境を整備するため、公共交通機関の利用券等を交付し、高齢ドライバーによる交通事故の減少を図った。【利用実績310名】 ・ひまわりバス時刻表（携帯版）の改良 住民組織と協働で、バスを使った松前町の名所・旧跡や日常生活でよく利用する施設への移動手段をQRコードでリンクさせた時刻表を作成した。
	保険課	医療費適正化の推進	<p>○健康課の保健師や栄養士と連携し、重複・頻回受診者への訪問指導を実施する。</p> <p>○医療・介護データを分析し、適正受診や予防の周知啓発を実施する。</p>	A	<p>○12月診療分までで訪問指導対象者の絞り込みを行ったが、訪問指導が必要な方はいなかった。しかし、重複・頻回受診者の中に同一薬剤を複数の医療機関で処方されている方（3名）がいたため、医療機関名、処方薬品名等を記載した文書を送付し、かかりつけ医又はかかりつけ薬剤師に処方の適正性を確認していただくよう依頼した。</p> <p>○データ分析の結果、健診未受診者の生活習慣病医療費が同規模の保険者と比べて高い傾向にあることが分かったため、広報まさき2月号に特定健診の受診啓発特集記事を掲載し、未受診者を含め広く周知を行った。</p>

担当部署		重点目標	取組方針	達成報告（令和2年3月末時点）	
部名	課名			達成度	進捗状況と今後の取組
保健福祉部	健康課	特定健診・特定保健指導の強化	<p>○内臓脂肪型肥満に着目した特定健康診査を実施し、生活習慣病発症リスクが高い方に対しては特定保健指導を実施し、医療費の抑制を図る。 また、未受診者に対しては、健診団体と連携・協力して効果的な受診率向上に向けた対策を行う。</p> <p>【目標実施率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査実施率：50%（H29実績31.9%） ・特定保健指導実施率：50%（H29実績22%） 	C	<p>○特定健康診査については、集団健診を6月から1月にかけて実施し、個別健診は年度を通じて実施した。 特定保健指導については、7月から総合健診結果を踏まえて指導を開始しており、28回実施した。 また、未受診者対策については、愛媛県総合保健協会と連携し、第2回受診勧奨を実施し、さらに、今年度未受診者に受診券を送付して受診を促した。</p> <p>【実施率実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査実施率 27.8%（令和2年2月時点速報値） 参考：平成30年度同期比速報値 31.5% ・特定保健指導実施率 実施人数は81人。実施率は年度をまたいで実施するため、現時点での実施率の算定ができない。

担当部署		重点目標	取組方針	達成報告(令和2年3月末時点)	
部名	課名			達成度	進捗状況と今後の取組
産業建設部	まちづくり課	空家対策の推進	<p>○社会問題となっている空家に対して、倒壊の危険性があるものについては適切に管理するよう指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空家所有者に対し、使用実態や今後の活用意向等を把握するためのアンケート調査の実施 ・倒壊の危険性が高い空家については、松前町空家対策協議会に諮り、特定空家等に認定する。 	B	<p>○町内の空家の把握を行い、空家所有者に対し利用意向等に関するアンケートを実施した。</p> <p>令和2年度は、事務局において把握している空家の老朽度等を精査し、優先順位を決定した上で、松前町空家対策協議会に諮り、特定空等の認定を行う。</p>
		土地の有効利用の促進	<p>○庁内検討会を開催し、土地利用方針の策定に向けた検討・協議を行い、検討会での方針案を作成する。また、有識者などを含めた土地利用調整会議(仮称)の設置に向け、準備作業に着手する。</p>	C	<p>○庁内検討会を2回実施し、市街化調整区域の地区計画運用方針の事務局案を策定した。</p> <p>令和2年度は、同運用方針(案)を都市計画審議会に諮り公告する。また、土地利用方針の事務局案を策定する。</p>
	産業課	まさき農業サポーター人材バンク登録制度の創設・運用	<p>○若手農業者検討会議で意見のあった農繁期の人手不足に対応するため、人材バンク制度を創設し、労働力を必要とする農家の方と、農作業に従事したい方のマッチングを行う。</p> <p>制度について、松山市農協、伊予農業高等学校等の農業関係機関及び農業者の集まる会議等で積極的に周知する。</p> <p>また、広報紙やホームページなどで継続的に周知することで登録者を増やし、人材バンクの充実を図る。</p>	B	<p>○広報で利用方法等を掲載するとともに農業者の集まる会議で周知を図った。</p> <p>【登録件数】サポーター：10件 求人農業者：8件</p> <p>【マッチング実績】0件</p> <p>今後は、人材バンク登録者等の意見を参考にし、登録申請や登録者名簿の閲覧方法等の手続の簡素化を図り、より利用しやすい制度となるよう取り組む。</p>
		松前町プロモーションビデオを活用した魅力発信	<p>○プロモーションビデオ(PV)を活用して、松前町の魅力を広く町内外に発信し、イメージアップを図る。</p> <p><県内></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エミフルMASAKIテレビ型モニターでの放映 ・松山市内の大街道・銀天街商店街ストリートビジョンでの放映 など <p><県外></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住促進イベントでの放映 ・各種観光イベントでの放映 ・カラオケ背景画像への利用申請 など 	A	<p>○PVを活用して、次のとおり松前町の魅力を発信した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エミフルMASAKIテレビ型モニターでの放映(9台) ・町の公式Youtubeチャンネルにて配信(6/11~) ・各課におけるイベントや会議で視聴 ・通信カラオケの映像 ・まさきいいとこ見つけ隊のイベントで視聴 ・10月から3月まで、毎週土日に松山市内の大街道・銀天街商店街ストリートビジョンで放映(25台)
		松前町レンタサイクル事業の推進	<p>○利用料金を見直すとともに、ホームページや広報などを利用して事業周知を強化し、利用者を増加させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクルPRチラシを制作し、エミフルMASAKI来場者に配布する等、レンタサイクルの周知と利用啓発を図る。 ・町の魅力を紹介する住民団体「まさきいいとこ見つけ隊」や観光ボランティアグループ「はんぎり」が実施する事業と連携し利用者の増加を図る。 	A	<p>○利用料金を見直すとともに、ホームページやチラシを利用して事業周知を強化することで、利用者の増加につながった。</p> <p>【利用実績】130件(前年比250%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レンタサイクルPRチラシを制作し、町内金融機関やエミフルMASAKI、県観光物産協会に設置する等、レンタサイクルの周知と利用啓発を図った。 ・7月27日町の魅力を紹介する住民団体「まさきいいとこ見つけ隊」や観光ボランティアグループ「はんぎり」が実施する事業と連携し、利用者の増加を図った。

担当部署		重点目標	取組方針	達成報告（令和2年3月末時点）	
部名	課名			達成度	進捗状況と今後の取組
教育委員会	学校教育課	学校現場における業務改善の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校業務改善委員会及び学校サポートチームを通して、業務の実態を把握し、業務内容の改善を検討する。 ○教職員研修等を実施し、業務改善に向けた効果的な取組の発案を促す。 ○事務システム化検支援員を引き続き配置し、事務処理の効率化を促進することで、教職員の長時間労働を是正し、ワークライフバランスの充実を図る。 ○採点業務や教材作成の補助、各種調査等の集計など教員の事務業務を補助するスクールサポートスタッフを各小中学校に1名配置し、教員の負担軽減を図り、教員が児童生徒への指導や教材研究等に注力できる体制を整備する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の把握と時間管理を徹底し、業務改善の推進に取り組んだ。 ○教職員研修を5回実施した（教職員の意識改革、学校マネジメント研修等）。 ○事務システム支援員を配置し、教職員の負担軽減に努めた。また、教職員のワークライフバランスの充実のため、夏休み中に学校閉庁日を設け、中学校の部活動において、休養日を設けるようにした。 ○スクールサポートスタッフの配置により、教職員の事務負担が軽減され、生徒への指導の充実や教材研究等ができた。
	社会教育課	ホッケーのまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○ホッケー公園の知名度を向上させ「ホッケーの聖地・松前町」を目指すため、大学等の合宿誘致を積極的に行うとともに、選ばれる施設にするため、施設附帯設備の充実・整備について検討する。 ○ホッケーのまちづくりの機運醸成のための自主事業をゼロ予算で企画し実行する。（職員によるクラブ立ち上げ等） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○合宿誘致を積極的に行った結果、令和元年8月には神戸大学男子ホッケー部が夏季キャンプを実施し、令和2年2月には、男子ホッケー日本代表「サムライジャパン」が東京オリンピックに向けた強化合宿を実施した。施設附帯設備については、ビデオタワーを設置し、合宿等の際、データ研究ができるよう設備の充実を図った。 ○機運醸成を図る上での自主事業として、職員や町内在住者を対象として、ホッケー体験を実施し、普及活動を行った。